

■目的（大会名：第71回国民体育大会）

■分析対象（少年男子サッカーU-16）

■報告対象者

2種および3種指導者

■流れおよび全体像

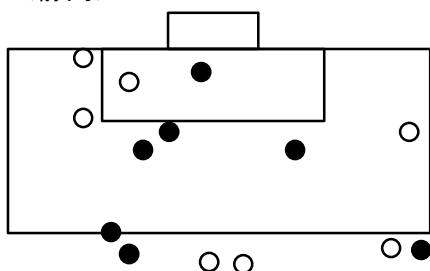
岩手県遠野市が少年の会場として行われた。会場では、出場した県に対して、応援する小・中学校を決めて、独自の応援が行われ、サッカーの試合を通して、東日本大震災での各地からの支援に対する感謝の念が届けられていた。2日間の視察であったが、全体的に参加チームからは、ボールを保持して試合を進めようとする意図を感じた。また、3連覇を逃した神奈川県の間々の基本的な技術の高さは特に印象に残る大会となった。

■課題の発見と分析

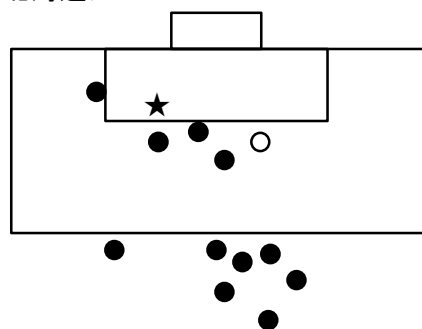
観戦した1回戦、静岡 vs 北海道の試合では、試合中にシュート機会を逃す場面が多いように感じた。会場では、「シュートを打てた」「決定機を逃した」などの感想をもつと同時に、決定機を逃していることが印象に残った。結果は0-1の敗戦。そのため、撮影した映像をもとに以下の視点に焦点を当て、試合分析を進めた。

PA進入回数	静岡：23回（前半7回）	北海道：9回（前半2回）
シュート数	静岡：14本（前半7本）	北海道：13本（前半1本）
（公式記録）	静岡：12本（前半5本）	北海道：12本（前半1本）
シュート位置	○：前半 ●：後半 ★：後半得点	

<静岡>



<北海道>



■トピックス

『データ収集と活用』

日本のJリーグや世界各国のリーグ、主要な国際大会では、様々なデータが集められ、発表されている。3種浜松地区中体連（サッカー）では、7月中学総体地区予選、10月新人戦の各試合で、『シュート分析』と題して、会場本部内で生徒に記録させたシュート数に対する得点数のデータを集め、各チーム指導者にフィードバックした。指導チームでは、主観的な分析だけでなく、具体的な数値で試合を振り返ることで、日常のシュート練習に対する選手の目的意識の向上が見られている。

■提言

サッカーの特性により、ストライカー不足、得点力不足はサッカーでの永遠の課題ではないかと感じる。よって、シュート技術、キックの質の向上は日々の練習から欠かすことができない技術である。日常の練習の中から、これらの技術を養い、静岡県、日本を代表するストライカーの育成や得点力の高いチーム作りへの一助となりたい。

終わりに、この貴重な視察の機会をいただいたコーチングスクール関係者の方々に、感謝申し上げます。

報告者：横井 健（浜松南部中）